

おいもを育てて つながりあおう！

おいもを愛する会 [広島県呉市]

.....

テーマ おいもラブ・ステーション・ プロジェクト

.....

活動の概要

おいもの栽培を広げ、栽培したおいもをいかしたイベントを実施するとともに、おいもラブステーションとして地域内外につながりの輪を作り出してその連携を強化した。

.....

設立年月 2004年12月

メンバー数 80人

代表者名 谷脇 けいこ

連絡先

〒737-0144

広島県呉市広白岳6-9-13

谷脇 けいこ

tel 0823-74-0705

fax 0823-74-0705

e-mail oimowoaisurukai.keiko2.5@pink.

megaegg.ne.jp

URL <http://ameblo.jp/oimowoaisurukai/>

.....

わたしたちについて

おいもを育てる取組みを通して、夢や思いやりにあふれ、互いに助け合う人間関係を創造します。新旧住民のつながり、外国住民との交流、子育て環境の向上を図り、一人ひとりが尊重しあえるコミュニティづくりをめざします。

.....

活動に至った理由や背景

広島県呉市広地区は、近年呉市の人口が減少する中にあって、子育て世代や外国人住民が他地区よりも多く、地区内の小学校の児童数も増加している地域です。その一方で、既存住民の高齢化が進んでいるため、良好な子育て環境の実現と住民の高齢化への対応などが地区の課題となっていました。

こうした地区的状況を背景に、平成16年12月に「おいもを愛する会」は設立されました。“おいもでつなげよう地域の輪”を合言葉に、「地域交流・あい・ふれあい・おもいあい・支えあい・愛・絆・人権・平和・なかま・つながりの輪」を築こうとする住民団体です。

わずか200m程の小規模な畑で、幼児、小学生、住民とともに芋類の栽培育成を行い、収穫したおいもを活用してイベントを開催しています。この取り組みは、子どもと高齢者の交流を生み出し、子育て環境向上に寄与しています。

平成21年度には「夢や思いやりにあふれ、たがいに助け合う、みんなが住みよいまちをつくろう!」を合言葉に「人づくり・まちづくり事業」を実施し、「人権尊重のまちづくり」について考え、学びました。

こうした活動を通じて、芋苗の提供者、畑作り・料理・イベントへのボランティア参加者、地元大学生、自治会、行政、NPOとのネットワークが形成されてきています。地域に根ざした活動を展開し、住民同士が協力し合いながら交流を深め、人々のつながりの輪を広げ、お互いを尊重し合える「なかまづくり」を通じて、誰もがこの町に生まれてよかったです、住んでよかったですと心から思える「幸せなまちづくり」をめざしています。

こうした取り組みをさらに広げるため、平成22年度には「おいもラブ・ステーション・プロジェクト」を活動テーマとして、年間活動を企画しました。地区内にある「潜在的な畑」を掘り起こし、また栽培した「おいも」を利用した活動、イベントを行い、「畑」や活動場所を「おいもラブ・ステーション」として地区内外のネットワーク化を図ることをめざしました。活動に参加する人々を「畑友たち」として仲間意識を共有しながら、住民の高齢化への対応と育児に悩む保護者を支え、良好な子育て環境をめざし、現在0歳から93歳までの幅広い年齢層が活動を楽しんでいます。

平成22度「おいもラブ・ステーション・プロジェクト」

まち中でおいも畑を増やし、畑づくりの得意な地域の人に教わりながら「さつまいも・じゃがいも」を植え育て・収穫を通して自然のすばらしさを共に体験し、みんなが住みよい幸せなまちづくり、一人ひとりが尊重し合えるコミュニティづくりをめざし、まず「潜在的な畑」調査を行いました。

この調査は、広地区に現存する畑作地の現状を把握するため「町中はたけ調査隊」により行われました（「町中はたけ調査隊」についての詳細は、後項を参照してください）。

平成22年3月に、おいもを愛する会の会員、地域のみなさん、子どもたちで植え育てた「じゃがいも」を、6月中旬に収穫しました。その「じゃがいも」は、子ども・保護者・地域の人と一緒に行う「料理教室」や、呉市の公的機関と連携して開催する、夏の収穫祭「じゃがちゃん祭り」などでも使用し、歌・楽器演奏・踊り・フラダンス・空手等、専門的な分野で活躍されている団体と連携し、交流を深めました。

また、4月から募集を開始して結成した「おいも育て隊」の会員には、「じゃがちゃん祭り」当日に「さつまいもの苗」の配布を行い、畑はないけれど家で育てたいと希望する会員には、20kgの土を提供、土袋の中でさつまいもの苗を育てることを提案し、体験していただきました。

さつまいもの苗の成長を確認し、ネットワークを繋ぐ方法として、会員全員に往復はがきを郵送したり、電話やメール等で交流を深めてきました。

11月中旬頃、各々の畑や土袋で育ったさつまいもを収穫しました。11月23日開催の「広教育祭」「市民活動メッセ」や、12月5日に開催した秋の収穫祭・第7回ふれあい地域コミュニティ文化祭「おいもちゃん祭り」では、おいも料理「おいも汁・おいもご飯・おいもパン等」を振る舞い、歌・楽器演奏・踊り・ダンス・空手等の披露、作品展示等々で交流を深めました。

これらの活動を通してお互いを理解し、人として尊重しあい、地域全体の人々の「つながりの輪」を広め、誰もが幸せだと心から思えるように、子どもを中心に地域コミュニティづくり・ネットワークづくり等様々な活動を推進しています。



○実施場所

呉市広会館、広コミュニティセンター、おいもを愛する会畑、畑友たちの畑、くれ市民協働センター、広まちづくり推進協議会ギャラリー

○共催・協力団体

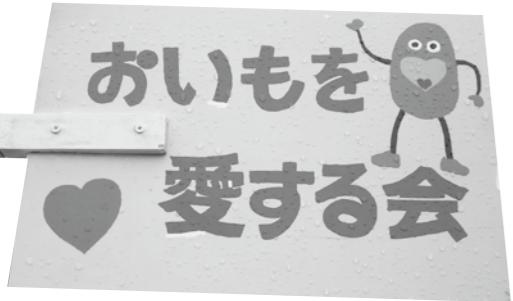
「ワールド・キッズ・ネットワーク」、「レイフラワー アナバヒロ」、「さわやかレクダンス」、「大学いもっ子くらぶ」、「アドベンチャースクール」、「呉観光ボランティアの会」、「ひまわり21」「呉市青年ボランティア協議会」「呉フォーク村」「正道会館空手教室」「ゆずりはなるこ会」「ジャザサイズ」「ヒップホップ」等

○後援団体

呉市広会館、呉市広白岳3丁目自治会、広名田自治会、広東福浦自治会、広白岳ハイツ自治会

毎月開催した子どもを中心とする「子どもの体験交流活動」では、会員の指導者だけではなく、地域の物作りの得意な人の協力のもと、四季折々の様々な体験活動の機会を充実させました。また、0歳児～未就学児と保護者の会「親子ふれあい広場フチボテくらぶ」を中心に、子育てについて考えたり、交流を深め、子育て環境の充実をめざしています。





体験交流教室開催

「子ども体験交流教室」、「親子ふれあい広場」を開催し、交流を深めました。地域のネットワークを広め、じゃがいも・さつまいもの栽培育成体験、新しい発見と体験を通して、自然と人間の関わりや、共に助け合いながら過ごす仲間づくりについて考えました。

また、自主性・協調性を育み、未来の社会人として「知識と教養」と「生きる力」を身につけ、同世代の親子が持っている悩みや思いを出し合い交流を深めて、子育て環境の充実をめざしました。



毎月、様々な教室やイベントを開催。子どもからお年寄りまで、たくさんの方々と「おいも」を通じてふれあいました。

子ども体験交流教室

- 初めて会に入会した子どもたちのスタートの月で、「なかまづくり」をテーマに活動しました。シャボン玉の液を調べて作り、楽しく遊びました。
- 白岳グラウンド・ゴルフクラブの協力で、グラウンド・ゴルフの体験をしました。
- 「七夕飾り作り」「そうめん流し」「かき氷作り」
- 「いのちの大切さ」「絵てがみを描きましょう」
- 「かるた作り」「お月見団子作り」「ベットボトルけん玉作り」「体力作り」
- 「ハロウィンの衣装作り」「グラウンド・ゴルフ体験」「ハロウインパーティー」
- 「楽しかったこと」。今年を振りかえって、思い出に残ったこと、楽しかったことを話しあい、カードを作成しました。
- 「花飾りを作りましょう」「風車を作りましょう」
- 「風作りをして遊ぼう」「かるたを作ろう」
- 「節分・豆まき」「割り箸で飛行機作ろう」
- 「折り紙でおひな様作り」



地域コミュニティづくりイベント開催

地域の子どもや大人で植え育てた「じゃがいも・さつまいも」を活用し、地域コミュニティづくりのイベント事業を開催して、様々な「おいも料理」で地域社会の人と人をつなぎ交流を深めました。また、広地区に多く住むブラジル人の子どもたちや保護者の協力を得て、ブラジル料理を通して食文化の紹介や地域交流の場を共に築きました。



じゃがいも収穫祭「じゃがちゃん祭り」

テーマ「でいい・ふれあい・おもいあい」
～おいもラブ・ステーション・プロジェクト～
～じゃがちゃんで広げよう地域の輪～

日時：7月4日(日) 10:00～17:00

場所：呉市広会館・広コミュニティセンター

参加：約350名

内容：じゃがいもを使った調理と販売。会のマスコット人形「じゃがちゃん・おいもちゃん」販売。「ふれあいステージ」での催し物(歌・踊り・空手・健康予防体操・魅力再発見紙芝居)、クイズ大会、抽選会。風船アート・ホールインワンゲーム・「プラバン」。「絵てがみコーナー」での作品作り。「おいも育て隊・畠友だち大募集！」入会希望の人へ土壌とサツマイモの苗をプレゼント！食事＆バザー・フリーマーケットコーナー等。



第7回ふれあい地域コミュニティ文化祭

「おいもちゃん祭り」

テーマ「でいい・ふれあい・おもいあい」
～おいもラブ・ステーション・プロジェクト～
～おいもちゃんで広げよう地域の輪～

日時：12月5日(日) 10:00～(雨天決行)

場所：呉市広会館・広コミュニティセンター

参加：約300名

内容：さつまいもを使った調理と販売。畠友だちの芋類・野菜展示・作品展示「ふれあいステージ」での催し物(歌・踊り・空手・漫才・体操・魅力再発見紙芝居)、活動紹介、クイズ大会、抽選会。「子ども広場」での風船アートなど楽しさいっぱいで交流を深めました。

機関誌発行

「おいもを愛する会」の機関紙「つながりの輪」を定期的に発行することにより、広く地域に「おいもを愛する会」の活動を知つてもらい、協力や参加者を呼びかけました。平成22年4月～平成23年3月末までに合計18号を発行しました。



町中はたけ調査

本調査は、広島国際大学の大学生を中心に組織した「町中はたけ調査隊」により、広地区（広名田2丁目、広白岳2～5丁目）に現存する畠作地の現状を把握するための悉皆調査です。

調査は、平成22年4月～5月上旬に予備調査、調査範囲・調査方法の検討を行い、5月中旬～6月上旬に本調査、6月中旬～7月上旬に調査データ整理を行いました。

調査隊は、広島国際大学工学部建築学科橋本研究室の学部生を中心に構成し、調査方法は、調査範囲の道路に沿って調査ルートを設定し、そのルートを調査員2名が1組で畠作地を探索する方法を用いました。

探索の際には調査員の一人が、位置確認のためGPSロガーを持ちながらデジタルカメラで撮影し、もう一人が撮影した場所を地図上に記録しています。

調査対象とした畠作地は、水田を除く「畠」および「畠にできそうなオープンスペース」とし、個人宅に作られた「菜園」も含むこととしました。アスファルト、コンクリートで舗装された「駐車場」、菜園でない「花壇」は除外することとしました。

本調査の結果、約150か所の畠作地を抽出することができました。この結果は、撮影した画像をベースとした「町中はたけ台帳」にまとめるとともに、WEB上にある無料の地図ホームページを利用して、関係者が土地の位置を閲覧できるようにしています。



平成22年度は「おいもラブステーション・プロジェクト」を活動テーマとして、地域活動の拡充をめざしました。

まず、町中はたけ調査とその成果についてです。広地区（広名田2丁目、広白岳2～5丁目）において「町中はたけ調査隊」による「町中はたけ調査」を行いましたが、その結果、畑となる可能性がある土地が地区内には意外と多い一方、「既に家庭菜園となっている」、「所有者の理解を得にくい」など、会が使用できる畑は多くないことも分かりました。

会が使える畑を増やそうという当初の計画は達成されませんでしたが、試験的に行なった20kgの土の袋を使ったサツマイモ作りが、ピンチヒッターとしての役割を果たしてくれました。マンション住まいの人でも、庭がない戸建て住まいの人でも参加できるのがよかったです。用意した40袋全てが、芋作りへの参加を希望した「畑友たち」のもとに旅立ちました。なかにはプランターで育てた人、畑がなかった庭に畑を作つて植えた人など、様々な体験が報告され、繋がりが深まりました。上手く育たなかつたものもありましたが、たくさんのサツマイモが育ち、参加者は大喜びでした。

さらに、この「町中はたけ調査」をきっかけとして、地区内の自治会長から、会長が所有する土地を「会で利用してもいい畑として提供する」という申し出がありました。現在、夏に向けて畑作用地として準備中です。

人の輪も広がりました。芋類栽培を担う「おいも育て隊」、ともに畑作りを担う畑所有者である「畠友たち」は、平成22年5月より登録を開始し、同年12月現在、約80名となっています。

地区外にも輪が広がりました。呉市内の他地区で畑作体験活動を行なっていたグループとの連携もありました。さらに、宮崎県や北海道など県外へ引っ越しをすることになった会員が、移転先でも「畠友たち」としておいもの栽培を続けてくれることになりました。

畠友たちの畑に看板を立てようと、看板制作も行いました。物作りの得意な会員、看板業を営んでいる会員が中心となり製作した、使用済みのペットボトルを利用した風車付

きの看板は、とても可愛らしく、思わず笑顔の出るものです。ラミネートなどを用いた
プラカード式の看板も考え、現在も順次作成中です。



さつまいもの苗植え



みんなでじゃが掘り



手芸教室



大収穫の記念にパチリ

調査に参加してくれた大学生は当地区やまちなかでの畑作りへの関心、地域の人々と一緒に活動することの意義、ボランティア活動に対する意識なども、少しずつ向上しているようです。このような人の輪の広がりは予想外の出来事でした。

イベント開催、各種教室開催でも成果がありました。会のメイン・イベントである「おいもちゃん祭り」、「じゃがちゃん祭り」は、畑で収穫したおいもを使った手料理を囲みながら、得意なこと、その年に取り組んで来たことを披露する祭りですが、広地区的4自治会から、おいもちゃん祭りに300名、じゃがちゃん祭りに350名と前年度以上の参加がありました。さらに、月数回開催している「子ども体験交流教室」、「親子ふれあい教室」、「親子ふれあい広場 プチボテくらぶ」にも参加者が増加、特に子育て世代のお母さんの参加が増えました。

ある参加者は、かつて育児等に悩み、相談をしたことをきっかけに「おいもを愛する会」に入会しました。今ではすっかり元気になり、おいもを愛する会のテーマソングをプレゼントしてくれました。さらにその話を聞きつけて、「おいもを愛する会に来たら元気になれる」と聞いて来ました」と入会する人がいるなど、会員が増えるという波及効果もあったようです。

じゃがちゃん・おいもちゃんのマスコット人形も好評でした。じゃがちゃん・おいもちゃんマスコット人形を鞄などに付けて歩いていると、「あつ可愛いね、どこで売っていますか?」と聞かれたりします。その時が、繋がるチャンスです。マスコットの説明をすることで、おいもを愛する会を知り、繋がり、輪が広がってきています。これからも、手芸教室を開催して「じゃがちゃん・おいもちゃんマスコット人形」を市民に広めたいと思います。

「おいもラブステーション・プロジェクト」を企画実践したこと、ここには書ききれないほどの嬉しいことがいっぱいあります。人の輪が広がりました。年齢層に幅ができました。それだけに要望も増えて多方面に渡っています。これからも世代間交流や、外国人住民との交流について日常的に交流が深まるよう工夫していくたいと思っています。町中の使われていない畑を生かし、畑作りをもつと身近に出来るように、それをきっかけとして、人の輪を広げられるよう工夫していくたいと思います。

○じゃがちゃん・おいもちゃん祭りの歌

じゃがちゃん・おいもちゃん祭りの歌が出来た経緯は、関西出身の若いお母さんが、親元を離れ、広地区で生活していくうえで色々な不安を抱えていた時に、私たちの呼びかけがきっかけとなり、行事や活動に参加するようになったことに始まります。私たちの活動への参加を通して、元気に楽しく生活する日々を取り戻し、育児しながら三味線を弾くまでに復活できたことへの感謝の気持ちとして、大学時代の友達に相談してこの歌を作り、おいもを愛する会へプレゼントしてくれたのです。YouTubeネットでも流れています。

その後、平成22年8月に、福岡県筑紫野市立天拝小学校2年生の先生から電話をいただきました。2年生81名でサツマイモを育てているらしく、生活発表会では非「じゃがちゃん・おいもちゃん祭りの歌」を使わせてほしい……という問い合わせでした。さっそく、じゃがちゃん・おいもちゃん祭りの歌のCDとマスコット人形を送付しました。その後、81名の生徒さんからお礼の手紙と生活発表会のDVD・写真などをいただきました。最高に嬉しかったです。

○畠友だちの輪

県外「宮崎県・北海道」にも畠友だちの輪が広がりました。現地の様子をブログでも紹介しています。

○秋じゃがいも

おいもを愛する会では、これまで春に「じゃがいもの種芋」を、夏に「さつまいもの苗」を植え、育てていました。今回、会員から秋じゃがいもを育ててみようという声が上がり、9月に畳2枚くらいのスペースに「秋じゃが」を試験的に植えてみました。12月に秋じゃがいもを収穫して、掘ったばかりのじゃがいもを使った料理教室を開催しました。参加者は三世代にわたる幅広い年齢層でしたが、和気あいあいと楽しく、美味しく料理をしてみなさん大満足でした。

○ブログ

若い保護者からの提案で、「おいもを愛する会」のブログを12月末に立ち上げました。まだまだ未熟ですがブログを立ち上げたことで活動の輪が広がりました。おいもを愛する会の情報発信の場として充実させていきます。

ブログタイトル：「おいもを愛する会」

URL: <http://ameblo.jp/oimowoaisurukai/>



今後の予定

今年度活動のテーマ「おいもラブ・ステーション・プロジェクト」を企画し、地区内にある「潜在的な畠」を掘り起こし、また栽培した「おいも」を利用した活動、イベントを行い、「畠」や活動場所を「おいもラブ・ステーション」として地区内外のネットワーク化を図ることをめざしました。

平成23年度は、活動のテーマを「おいもラブステーション・パワーアップ絆プロジェクト」として、平成22年度の町中はたけ調査をきっかけとして発掘された「潜在的な畠」と、栽培された「おいも」を生かした活動を企画し、「町中はたけネットワーク」を形成する基盤づくりをめざします。

具体的には、以下のような「おいもラブステーション」(畠とおいもイベントスペース)の充実と活動を行います。

○「畠作り」の強化

徐々に増えつつある「おいも育て隊」「畠友だち」の協力を得ながら、広地区中心から呉市全域へ「畠」を増やします。特に様々な人々が畠作りに取り組めるよう土壌袋やプランターを用いた栽培方法や、栽培した作物を地域へ提供・販売する手法についても、農業経験者や豊富な知識をもつ人たちと協働して検討します。

○人的ネットワークの充実

おいも育て隊および畠友だち同士の情報交換(手紙・冊子・インターネット)を、充実させます。特に1年間に栽培した芋類や活動の様子を本やホームページ、マップ等の形で情報発信をする予定です。

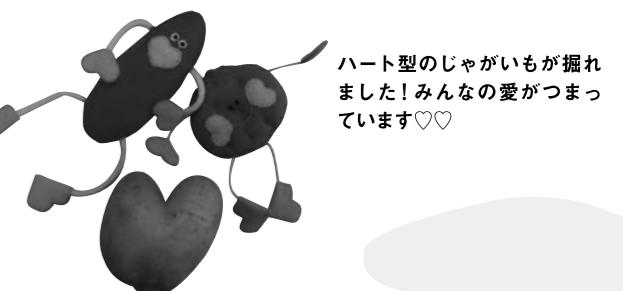
○「おいも」を活用した国際交流

中国やブラジル等の外国人住民とその関係団体と協力しながら、芋類を使った料理教室を開催します。また、それらの発表会や祭りなどのイベント等も開催します。

○「おいも」の特産品開発

地元飲食業者、食品製造業者の協力を得ながら、収穫された芋類を使った商品の開発を試みます(現在、パン、スイーツ、練り物を検討中。平成22年度は、さつまいもを使ってその試作品を製作しました)。じゃがいもは6月中旬に収穫です。じゃがいもを使って色々な「じゃがいもパン」を作ります。一人ひとりが輝いて生き生きと活動出来る組織運営を工夫して、会員一同協力してがんばります。

これからも、「でいい・ふれあい・おもいあい」の心で多くの人と繋がり、笑顔あふれる幸せなまちづくりと一緒にめざしていきます。



ハート型のじゃがいもが掘れました!みんなの愛がつまっています♡♡